

奈良伝承

Vol. 10

さまざまな
技術を受け継ぐ、
担い手をご紹介。
みんなで応援しよう！



和紙のできるまで



工房近くにある楮畑。春に新芽を出し、冬には3m近くに成長して刈り取る。



楮を蒸し、剥ぎ取った樹皮を山や川のきれいな水に晒して、白い状態に。



煮たり、叩いたりしてほぐした楮の繊維に、水や植物のとりも成分、白土を加えて材料となる。



丁寧に漉いた和紙は、水気を切って1枚ずつ乾燥させる。



端を整えて出荷する。出荷先は、表装用品の間屋さんなど。

吉野 手漉き和紙

植和紙工房6代目 植三浩三さん(46歳)

どんな紙を作っているのですか？

うちでは主に、書や絵を、掛け軸などに仕上げる『表装』用に使う『宇陀紙』という和紙を作っているんです。江戸時代、宇陀松山の商人が、吉野地域の和紙を全国に販売したので、宇陀紙という名前が広まりました。現在でも、表装の分野で宇陀紙は最高級の紙とされているんですよ。

なぜ最高級なのですか？

全国でも川上村周辺でしか採れない特別な白土を混ぜて漉いていて、作品の湿度を調整で



特別な白土

きる上、適度な重さと柔らかかみがあつて表装しやすいところが評価されています。

浩三さんは小さい頃から紙漉きの仕事をしようとして決めていたのですか？

子どもの頃、家族みんなが朝早くから紙漉きの仕事をしてるのを見ていたが、当時は料理人になりたかったですね。でも仕事を具体的に考え始めた時、紙漉きも仕事として、やっていけるんじゃないかと思つて。(笑)

仕事を始めて約27年、どう技術を受け継ぎましたか？

職人の仕事は、見て覚えるものだと思います。父の仕事をよく見て技術を身につけようとしていますが、いつになったら納得できる紙が漉けるかなと思いますね。和紙をもっとムラ無く均一に漉きあげられるようになりたいと思います。



慎重に、リズム良く和紙を漉きあげる。一瞬のうちに繊維の流れもコントロールする植さん。

これから挑戦したい事はどんなことですか？

こんな素材で紙ができないか？というお客さんからの新しい注文にどんどん挑戦したいですね。例えば、楮以外にも吉野の杉や檜を使った紙も作っています。木の色合いが出て、いい風合の紙になるんですよ。



吉野の杉を使ったレターセット

紙漉き体験もできるそうですね。

はい。うち以外でも、このあたり『国栖の里』では、紙漉きの他に割り箸作りや陶芸などさまざまな体験ができる工房がある

お父さん、浩三さんが跡を継ぐことになって、いかがですか？

伝統の技術を一代先まで繋ぐことができずうれしかったです。でもこの仕事も、商品が売れて、生活できなければ続けられませぬ。時代に合つて皆さんに使ってもらえる和紙を作つて欲しいですね。



5代目 植貞男さん(76歳)

「植和紙工房」

〒吉野町南大野237-1
☎ 0746-36-6134

はがきやタペストリーを作る紙漉き体験は1日20人くらいまで。電話で事前に予約が必要です。吉野手漉き和紙は「きてみてならSHOP」(近鉄奈良駅からすぐ)などでも購入可。